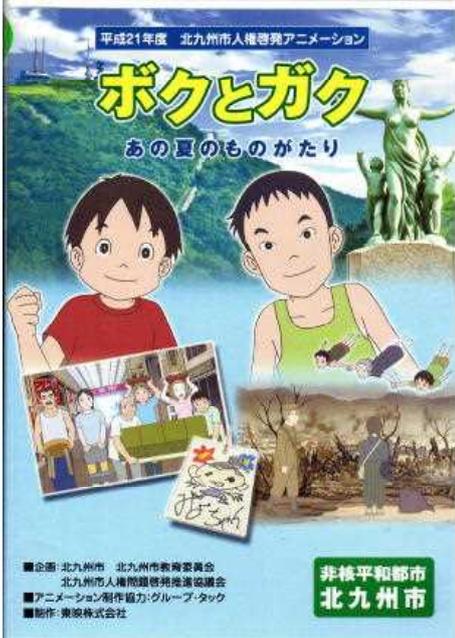


# 教材紹介

<p>【タイトル】</p> <p style="text-align: center;">ボクとガク ～あの夏のものがたり～</p>	
<p>【教科・領域】</p> <p style="text-align: center;">道徳 人権同和教育</p>	
<p>【保管棚番号】</p> <p style="text-align: center;">K-3</p>	
<p>【バーコード番号】</p> <p style="text-align: center;">101989</p>	

【内容の概略】

小学5年生の希望（のぞみ）と岳（がく）は、近所の美代おばあさんと親しくなり、かつての友達や地域、八幡大空襲のことを教わります。2人の子どもとあばあさんとの交流を描きながら、子どもの人権や、地域で育む人権文化に目を向け、また次代に語り継ぐものとして「戦争と平和」についても描いています。（株式会社テス・サービス HP より引用）

【感想・児童の声】

- ・ 友だちってというのは、永遠に消えないものなんだなってというのがわかりました。おばあさんのむかしの戦争の話は、ちょっと感動しました。万引きはいけないと思いました。ぼくも友だちを大事にしたいです。
- ・ 2人ともやさしいところもあったし、やっちゃいけないこともしたけど、最後にはちゃんと「ごめんなさい」と言ってえらいな、と思いました。おばあちゃんを助けてあげたところが、やさしいなと思いました。最後までいい話でした。でも、おばあちゃんがなくなって、私も悲しくなりました。とてもおばあちゃんは優しかったです。もう一回見たいです。いい勉強になりました。
- ・ ガクは、最初は万引きとかをしていたけど、友だちができて、笑顔がふえたと感じました。なかよくなれば笑顔もふえると思いました。戦争はとてもいけないと思いました。おばあちゃんはとてもやさしい人だと思いました。

